

OB会報

第7号
湘南サッカーデOB会

夢よふたたび

OB会長 天野武一 (第1回)

わが湘南高校が全国高校サッカー選手権大会に出場する。本当にうれしい。よくぞここまで勝ち抜いてくれたと思う。

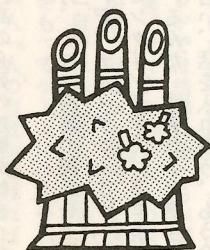
ところで、何も威張るわけではないが、前年の昭和六二年一一月一三日、わが湘南OBがいわゆる名門旧制中学OBの定期戦で優勝を遂げたことは、幸先のよい前触れであった。旧制中学時代にサッカーの名門として鳴らした神戸一中、東京高師附属、東京府立五中、同じく八中などのOBたちと展開したOB合戦における勝利がこれである。そうして翌六三年の同月同日、まさしくこんどは、湘南高校の現役諸君が見事に県予選を勝ち抜き、「二十三年ぶり六度目の優勝」とかいわれて、「本当ですか」と念を押す者がいるほどうれしいニュースとなつた。さらにもまた、われらのOB仲間の駒崎虎夫君(彼こそは、湘南中学から慶大に進み全日本を代表する名フォワードとして活躍した名選手)が、昭和五年にはじめて県大会に優勝した幕開けの時代をなつかしく回想して、夢よもう一度とばかりに昭和六三年年頭のOB会報第六号に寄稿し、母校の諸君に奮起を呼びかけてくれたが、この一文は奇しくも的確な暗示となつてこの度の快挙を誘引したことを、私は信じたい。

去る一二月一八日の祝賀・壮行の会の会場では、同君が元気にわが意を得たりとばかりに快心の笑みを浮べているのをみて、私はうれしかつた。そして同君らとともに湘南サッカーの歴史を担つた往年のイレブンの誰れ彼れが蹴つて走つた若かりし日の面影の上に感慨を馳せたのである。残念ながら、最もその会

場にあらしめたい人物であつた岩淵一郎君は遠く幻の彼方に逝ってしまったけれども、この日、杖を曳いて姿を見せられた未亡人からがうことができた。このサッカーの鬼は、知り人それぞれの心に、この日あらためてよみがえったにちがいないと思う。

さて、昭和二一年一一月三日、第一回の国民体育大会に東日本代表の湘南中学が、「西宮球場へ駒を進め西日本代表神戸一中と決勝戦を行ない、三対二で優勝して」全国制覇の宿願を達成してからすでに四〇余年の歳月を経た。その試合の経過は、わがOB会発行の「岩渕二郎追悼記念『湘南サッカー(半世紀を経て)』」に詳しく述べられている(とくにその八四頁ないし八八頁)。ともあれ、今、サッカーの個人技も組み立てもこれをみるわれわれの眼もずいぶん進んでいる。私は偶々去る一二月一日、ウルグアイとオランダの両代表クラブの熱戦激闘を観戦して、その折の説明書の記事「戦術と戦法の新しい傾向」をみて、しみじみとサッカーの魅力の深化について教えられるところがあつた。

切に、各位の御自愛、御健闘を祈り上げる。



第67回全国高校サッカー選手権大会

OB悲願の全国大会 現役出場 果す!!



ドキュメンタリー

「ベスト8」 決勝

右からの二一ナーキングそれまでに多く
一トからいいチャンスを作っていた湘南。何
かが起きるのではないか、そんな予感がする
一一月三日、準々決勝、対藤沢西高戦、後半
一〇分。三年生が八人も残った今年のチーム
にとてはこの試合が本当の勝負だった。
対する藤沢西高は、優れた選手を抱え、こ

育経の道を走るホーリーでない前に、少くとも
ユダヤ人、皆が、スペースではなく足元でボ
ールをもらおうとする。そんな循環が続く
ものなのだが、我らが現役たちは、自信と勇
気を持って攻撃する、頼もしくもあり感動的
だった。これこそチーム、そう思う。

藤沢西高も何度かチャンスをつかんだけれどそれをゴールに結び付けることはできず、結果一〇で湘南が準決勝に駒を進めた。内容的にも気力という意味でも、この代の最高のゲームだった。最高のサッカーを自分たちの泥まみれ。素晴らしい闘いだった。もちろん

、
前半と同じような形から木村が「二点目を取つ
た。」
局その願いとは裏腹に、前半は一〇で終了
した。
そして後半、最初危ない場面もあったが、
つているんだい。もう一点入れるぞ」と逆に
発奮することを十分に承知している。ただ結

湘南の集中力、それは西高の闘志を上回っていた。「いいぞ、ナイスプレー!」「付いていけ!」「センタリングを上げさせるな!」のない藤沢西高の必死の攻撃が始まったのだ。

な状況でも常にシュートを狙う、どちらかといふと職人タイプの選手だ。そこからはもう押せ押せムード。いつ二点目が入ってもおかしくない雰囲気だった。スタンンドで観戦の鈴木部長からは「もう、前半は点を入れなくて

筆頭だ。とはいへ高校生のこと、どんな試合になるかなんて誰も予想できやしない。下馬評で藤沢西高有利という根拠は、選手個々の能力が上回っているということなのだろうが、サッカーはチームゲーム、個人の能力がいくら上回っていても、最終的にはチーム全体としての力、そしてチームスピリットがものをいう。

この日、湘南イレブンの気合いの入ったプレーは凄かった。彼らの、最後まであきらめないディフェンス、ボールを取り返した後のフルスプリントでの前線への飛び出し、凄かつた。アリバイタックルをかける者など一人もいない、最後まで粘り強く競り合い、カバーリングをし合う、そこでは誰もサボッたりしていない。そして攻撃だ。強い相手とやるときは往々にして攻撃が消極的になる。ボールを取り返しても前へ大きく蹴るだけ、誰も

は並大抵の精神力ではない。本当によくやつた。さあここまでたら全国大会だ。

神奈川県の高校生にとってはここがサッカーのメッカ、横浜の三ツ沢競技場だ。一月六日、準決勝の相手は鎌倉高校。準々決勝どは、名門、旭高校を破っている。

試合は湘南ベースで始まり、それが最後まで続く。善木、及川、若木、結城のしつかりしたディフェンスラインをベースにした素早い攻め、何度も湘南の快速FW田村が相手ディフェンスラインを突破する。いい、このままの調子でいい。湘南ディフェンスもどんどん攻撃に参加してくる。全員攻撃、全員守備もちろん大人のサッカーとはレベルは違うだろうが、彼らがやっているのはモダンサッカーライそのものだ。そしてゴール。前半二五分。コーナーキックをFW木村が押し込んだ。この木村、とにかくショート感覚は抜群、どん

バーへッドでコースを変えて押し込んだゴル。木村の本領発揮というところだ。そしてMF石井のミドルシュートで三点目。勝負はついた。一月二三日、同じ三ツ沢での決勝戦へ進出だ。

湘南は、決勝戦を前にして問題を抱えていた。それまで、練習はほとんど出来ず、痛み止めの注射を打ちながら試合に臨んでいたMF小林とDFでキャバテンの結城、彼ら以外にもそんな怪我人が一人増えてしまったのだ。準々決勝、対藤沢西高戦で、相手の中心選手であるMF沢田を、マンツーマンで完封した山口、その試合で打撲症を負い、準決勝には痛み止めの注射を射つて出場した彼が、今度は左足首を強く捻挫してしまったのだ。相手には絶対にボールを渡さない、そんなファイティングスピリットの固まり、そしてチームの中心、そんな彼が抜けるわけにはいかない。

試合前日、彼の左足首はまだ大きく腫れ上がっている。その日、「絶対に出場する」、そんな彼は、ほとんどピッコを引きながらランニングで体を慣らしていた。「怪我人が……」そんなことは藤塚監督の口から出ることはなかった。監督が弱気になれば選手は……。選手の自覚を常に言い続ける藤塚監督。そう、そのことをよく理解している。

試合が始まった。相手は県立相模原高校、誰もが予想していなかつた相手だ。彼らには何も失うものはない。始めからガンガンと、「フォアチェック」を仕掛けてくる。準決勝とは見違えるほどの出来だ。そして湘南は……。これまで崩れかけたこともなかつたディフェンスラインに亀裂が見え始める。「危いな……」湘南を応援する誰もが感じたことだろう。

とにかく中盤までクリアされたボールのほとんどが相手に奪われてしまうのである。さあ、ここから勝負だ。このまま、相手のペースで終わってしまうのか、それとも「闘うスピリット」を自分たち自身で呼び起すことが出来るのか、それはグランド上の選手の問題だつた。FWの田村が突進する。勇気をもって相手に突っ掛けていく。MF山口やMF小林がサポートのために全力で押し上げていく。やはり彼らは「自分たち自身で闘うこと」を忘れてはいなかつた。「おい、何やってい

るんだ。頑張れ！」「しつかり戻つてこい！」DFの中心善木や若木、及川に

も声が出始めた。唯一、一年生でレギュラー

で選手の意識を高めたこと、鈴木部長、そして藤塚監督は本当に良い仕事をしたと思う。

それに伴つてチャンスの数も多くなっていく。

それで、左サイドで相手を二人三人とかわし

たF.W田村がゴール前で狙つている木村へ。

ダイレクトでシュートされたボールは、ゴー

ルキーパーの腕をかすめてネットに突き刺つ

た。一〇〇。あれだけ押し込まれていた湘南

の起死回生の一発だったが、それも選手

がアクティブにトライしたからで、そこには

こぼれ球を狙つて突つ込んでいった選手まで

いたのである。

それから展開は全体的には五分五分だっ

たのだが、それでも相手の闘志は十分、押

していった。そしてそんな我慢くらべのよう

な時間が過ぎタイムアップ。湘南は、神奈川

県2・・・校の頂点に立つたのである。

これは、鈴木部長、藤塚監督、そして選手

たちの共同作業としての素晴らしい成果だっ

た。

つかるように抱き付く。

これでもう大丈夫、そう信じていた応援団

たまには一緒にボールを蹴りながらこのチー

ムの成長を外から見てきた。無愛想でナマイ

キだが試合となればチームのためにとこん

で藤塚監督は本当に良い仕事をしたと思う。

そこで、最後にもう一度震えることになる。相模

一人一人がだんだんとアクティブに闘い始め、

レブン、それまで素晴らしいバックアップを

相手を蹴飛ばしても突破しようとする強引

なヤツ、素直そうだが試合となると手まで使

て激しくボールを奪いにいくヤツ、とこと

んな陽気で試合でも陽気にゴールを奪うヤツ、

そんな色々なパーソナリティーが集まつてい

た。それが私の最初の印象だった。そして、

藤塚監督、彼を全面的にバックアップする鈴

木部長、このお二人は、これらの個性が自然

に伸びるように指導されていた。選手の成長

プロセスには学ぶところが大きかった。

全国高校選手権神奈川県予選での優勝、こ

の成長は、現場で頑張った選手や指導スタッ

フのものだ。「きみたちが勝てば本当に嬉しい、仕事にも張りが出るんだよ」、そんな

ことを言ったOBがいた。それがOBの方々

の正直で素直な気持ちだろうと思う。現役の

諸君にとって、そんなOBの気持ちが少しでも心の支えになれば幸いだ。勝負を終えた者たちのすがすがしい笑顔が印象的だった。

本当に素晴らしいチームになった。正月の

全国大会では、全員が健康な状態で、準々決

勝、対藤沢西高戦のような良いサッカーを再び見せてくれるだろう。

何が素晴らしいか、それは選手一人一人の

意識だ。グランドでは結局自分たちが闘うの

だ、そんな自覚、それがこのチームの原動力

だらう。たしかに、何人かの傑出した選手も

これまでの二試合、彼は点を取っていない。

もちろん彼の能力は知れわたっているし、こと

だ、そんな自覚、それがこのチームの原動力

だらう。こぼれ球をゴール右サイドヘブチ込

として責任感をもつてゲームにアクティブに

臨む」そんな一人一人の自覚がなければチー

ムとしての力が結集するはずもない。私は、

たまには一緒にボールを蹴りながらこのチー



△昭和六十三年湘南ペガサス活動報告△

田川明

県大会（第一回県会議長杯）で優勝！

現役諸君の奪斗による、二十三年振りの全国選手権出場という快挙は、OBにとつても本当にうれしい出来事でした。

サスも奪起しなければというところです。
「四十才、若いなあ！」といわれるペガサス
ですから、OB諸兄も適令期に達しました

というのは、以前では、感覚的にもはっきりと分からなかつた一つも二つも上のレベルのリッカーラーを知ることができたことによつて、国

まず初めに、部員一同を代表しまして、日頃からのO B会の皆さんへの多大なる候支援に感謝します。また、これからもいろいろな形

それに先駆けて、湘南サッカーと書いてはなんですか? 我がペガサスも、今年は県優勝を果たし、ここでもまた「湘南サッカー」をアピールしました。六十二年末から六十三年三月にかけて四十雀大会出場の一、二部計十八チームがオーブンのトーナメントで、第一回の神奈川県議会議長杯をかけて戦いました。その戦績は

ら是非ペガサスへ。
最後に、今年ただ一つ残念だったことは、
会員の小瀬村秀夫君(27回)を失ったことで
した(六十三年六月、ニューヨークで客死)。
同君のペガサスでの活動に感謝すると共に、
ご冥福を心からお祈りするものです。

体を境に自分自身の目標のようなものを、イメージでつかめたので、普段、学校で練習する時など、いい刺激になっています。

ところで、選手権は、けが人も復調し、予選の時よりも、きっといい試合が出来ると田中さんもおっしゃっています。ベスト8までは、絶対勝ちたいで

で湘南高校サッカー部を盛り立てていって下さるよう、お願ひ致します。

今年は、六月に関東大会、そして冬の選手権とふたつもタイトル（本大会出場権）を取れるとは、本当に夢のようなことです。今だに実感が湧かない、というよりは、今現在も高交サッカーを壳うらる「よき」と、うち

一回戦　対横浜シニア（不戦勝）
準々決勝　対神奈川四十雀（二一〇）

準決勝　対鎌倉四十雀（三一〇）
決勝　　対横浜O B（四一二）

国体選抜に選ばれて

3年 田村直也

周年の年に花を添えられました。

春休みに京都遠征、夏休みに浜松遠征、そして国体関東予選に辛くも勝ち、出場権を得て、自分がサッカーを始めてから、初めて全

一方、四十雀リーグ戦は、この優勝の余勢をかって、出足好調で、これまた初優勝かと思われたのですが、後半、動員力の落ちたことも一因となり、結局、昨年同様三位に終りました。一部九チーム（二部も同数）は実力伯仲ですし、今年は各チームとも若手を意欲的に補強してきましたので、六十四年はペガ

国大会へ出場したのが、今回の京都国体でした。初戦の山口県選抜戦の時、初めて自分の所へボールが来たとき、選抜チーム独特の、消極的になってしまふような、いやな重圧を感じました。しかし、ゲームに夢中になり、自分らしいプレーができたり、得点した時などは本当にうれしかったです。初戦はかなり

今年のチームはよくやりましたが、なかでも三年生は本当によく頑張りました。今年の八人を紹介しますと、まずガツツあふれるプレーとその性格でチームを盛り上げるG.K.永井。「足よりも口に期待している」と鈴木先生に言わせたDF善木。しつこいディフェンスの及川。いつもクールなゲームマーケター小林。常にチームの状態を見ているテクニシャンのMF山口。その足の速さとテクニックで相手を翻弄するFW田村。意外性のあるシューートで常にゴールをねらう木村。そして元主将、ヘディングとロングスローを得意とし、足でサッカーリーをしていない奴と言われるDF

現役報告

’87
’88 キヤプテン

若木均

若木。この八人がチームをぐいぐい引っ張つてきました。一九八九年元旦より始まる本大会では精一杯闘いますので、応援のほうもよろしくお願い致します。

試合結果

一九八七年 新人戦(地区)

- 11月28日 湘南2-1相工大
11月29日 湘南0-2日大藤沢

(3決)

- 12月6日 湘南0-1藤沢西
12月28日 湘南1-0田名
12月29日 湘南1-1多摩
12月30日 湘南0-2県相模原
湘南2-1厚木南

一九八八年 新人戦(中央)

- 1月15日 湘南6-2神田
1月17日 湘南1-0大清水
1月23日 湘南1-1鎌倉
(PK5-3)

- 1月24日 湘南2-1市立南
(準決)

- 1月30日 湘南1-2桐原
(3決)

湘南高校V.S筑波大学附属高校第40回定期戦

- 4月3日 湘南2-0筑波大附属高
関東大会2次予選

- 4月10日 湘南4-0大和西
4月16日 湘南3-0藤沢商業
4月17日 湘南2-1東海大附相模
4月23日 湘南1-0相工大

- (決勝)
4月24日 湘南2-1秦野

- (準決)
4月29日 湘南0-4藤沢西

- 5月11日 湘南0-2浦和
浦高戦

- 第31回関東大会
(決勝)
11月6日 湘南3-0鎌倉
(決勝)
11月13日 湘南2-1県相模原

- 全国高等学校サッカー選手権大会第2次予選
9月25日 湘南2-1法政二
9月4日 湘南0-2相工大附高
11月3日 湘南1-0藤沢西

- 7月25日 湘南3-0日大明誠
湘南 湘南1-0愛知朝鮮
7月26日 湘南0-1四日市工
湘南0-2機山工 (B)
湘南0-1静岡東 (B)
湘南4-1塩釜
湘南0-1三木農業
湘南0-2静岡大学
湘南0-12静岡市立
湘南2-10市ヶ尾
湘南3-10長後
湘南3-0藤嶺藤沢
湘南2-1法政二
湘南0-1日大明誠
湘南1-0日大明誠
湘南1-0藤嶺藤沢
湘南2-1法政二
湘南0-1日大明誠

(ブロック決勝)

8月12日 湘南2-10市ヶ尾

市民大会

8月17日 湘南3-0長後



祝賀・壮行会
開かれる!!
12月18日(日)
於 藤沢ウイング

現役含め300名参加
本大会での活躍を祈る



★蹴球祭・総会のお知らせ★

多数の御参加を!

1月15日(祝)於 湘南高校

11:00~17:00

第1部 11:00~11:45

総会(大教室)

第2部 12:00~17:00

試合(グランド)

- 当日午前中は、新人戦の県大会トーナメントが行なわれております。湘南高校は第1試合9:30からの予定です。
- 豚汁とお弁当を用意いたします。皆様お誘い合せの上、多数ご参加下さい。
- グランドでの試合は、慶応OBで2チーム(旧制・40代)を迎え、13時より各々我がOBチームと試合の予定です。他に紅白戦。

63年度会計報告

(63.1.15.~64.1.14.)

〔収入〕

62年度繰り越し	7,733円
63年度会費(244名分 寄付を含む)	1,368,000円
	1,375,733円

〔支出〕

蹴球祭	106,000円
現役寄付	400,000円
春の通知	31,800円
静岡遠征(OB2名分)	60,000円
ビデオ(編集代含む)補助	100,000円
試合経費(薬品、ドリンク)補助	100,000円
筑戦	38,000円
関東大会案内	32,460円
夏の通知	42,460円
夏のOB会(現役差し入れ含む)	80,000円
特別費(香典、応援ラッパ)	42,000円
事務消耗品	40,000円
会費払い込手数料	12,150円
会報編集・印刷・郵送費	150,000円
	1,236,070円

収支合計 +139,663円

《お願い》

■64年度会費納入の件■

現役壮行会の折には、ご寄付を頂きましたが、OB会年会費は例年通りですので、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

- ・社会人 5,000円
- ・学生 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、ご欠席の方は、お手数ですが同封の振替用紙にてお振り込み下さるようお願い申し上げます。

尚、下記銀行口座も従来通りでございますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金

口座番号 019166

湘南高校サッカーチームOB会

安保隆文 TEL 0467-22-1794

■事務局住所は下記の通り■

〒251 藤沢市鶴沼神明5の6

県立湘南高等学校内

藤塚久雄氣付サッカーチームOB会

TEL 0466-26-4151

事務局便り

- 事務局総動員で取り組んだ現役壮行会も、無事挙行されました。OB以外で、湘南サッカーを見守っていて下さる多くの方々の存在を知り、感謝の気持ちを新たにいたしました。
- 壮行会ご出席のOB各位、また、寄付・励ましのお手紙をお届けの方々、会報により喜びの一端なりとも共有していただければ幸いであります。
- 蹴球祭に向けて会報を編集しましたが、何の準備不足のため、原稿をお寄せのOBにも

計報	入沢 栄四郎(6回)	吉瀬 幸夫(56回)	山口 相羽(893)	安保 雄(22)	0466(34)	0466(34)	0466(34)	0466(34)	0466(34)
			0466(34)	0466(34)	0466(34)	0466(34)	0466(34)	0466(34)	0466(34)
			4824	1794	4824	1794	4824	1794	4824
			49	4	4	4	4	4	4

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

失礼のありましたことお許し下さい。

(6)

●総会で各自詳しいご報告をいたしますが、

(6)

必ず150万円を現役に寄付することが出

(6)

きました。ご協力ありがとうございました。

(6)

尚、記念テレホンカードがまだ余っております。蹴球祭に持つてまいりますので希望の

(6)

方はどうぞ。(但し、一枚500円です。)

(6)

●住所変更等、電話でのお問い合わせ

(6)